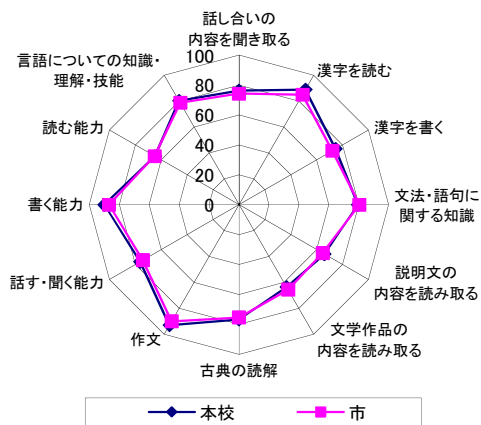


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	76.3	74.3
	漢字を読む	88.8	84.9
	漢字を書く	74.5	72.1
	文法・語句に関する知識	79.4	80.5
	説明文の内容を読み取る	66.0	64.6
	文学作品の内容を読み取る	63.6	65.6
	古典の読解	76.6	75.3
	作文	93.1	90.0
	話す・聞く能力	76.3	74.3
観点別	書く能力	90.1	86.8
	読む能力	64.9	65.1
	言語についての知識・理解・技能	80.3	78.6



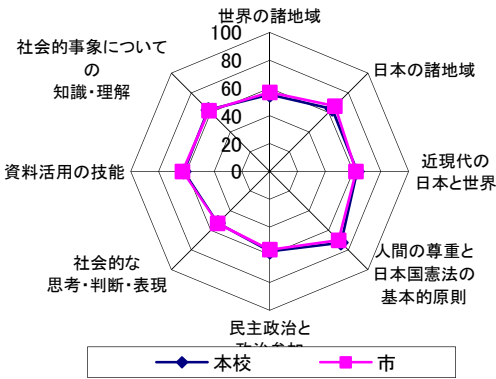
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	市平均と比較して+2.0%であった。特に話し方の工夫や話し手の意図について正確に把握する力が高い。しかし、話の内容を把握する力に課題がある。	メモの取り方が身についていない生徒が多いので、話を工夫して分かりやすくメモにまとめる方法について指導する。
漢字	市平均と比較して「読み」が+3.9%で「書き」が+2.4%であった。8問全てについて市の平均を上回った。	今後も授業の中で、社会生活において必要な漢字の能力が身に付けられるよう、生徒任せにせず積極的な指導を行う。
文法・語句に関する知識	市平均と比較して-1.1%であった。同音異義語に関する問いにおいて、市平均よりも9%近く正答率が低くなっている。他の慣用句や助動詞、四字熟語に関する問いは、概ね市平均と同等であった。	言語事項の指導においては、取り立て指導だけにとどまらず、「読むこと」「書くこと」の指導の中での関連指導を充実させていく。
説明文の内容を読み取る	市平均と比較して+1.4%であった。5問中4問で市の平均を上回っていた。特に内容理解の問いの正答率が高く、正確に筆者の論を把握することができる。	今後も、正確に論旨を把握する力や展開や構成をとらえる力を高める指導を継続する。
文学作品の内容を読み取る	市平均と比較して-2.0%であった。登場人物の様子をとらえる問の正答率が、市平均に比べて7%程度低い。心情の把握は概ね市の平均並みである。	根拠を明確にししながら、登場人物の行動や発言の意味を考えさせる授業を展開する。
古典の読解	市平均と比較して+1.3%であった。歴史的仮名遣いの知識や主語の把握に関する問いで、高い正答率を示した。しかし、内容の把握に関する問いが-2.0%であり、やや課題がある。	内容を予想したり、想像を膨らませたりしながら、粘り強く古典の文章にを読み込んでいくよう指導する。
作文	市平均と比較して+3.1%であった。構成の仕方や自分の考えの根拠の明示に関わる点数が特に高い。	意見文については、構成や根拠の明確化に特に留意させて、説得力の高い自分が書けるよう、今後も継続的に指導していく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	55.3	56.9
	日本の諸地域	63.6	66.4
	近現代の日本と世界	62.8	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	72.5	70.1
	民主政治と政治参加	57.6	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	52.7	53.0
	資料活用・技能	61.8	62.7
	社会的事象についての知識・理解	62.5	61.9



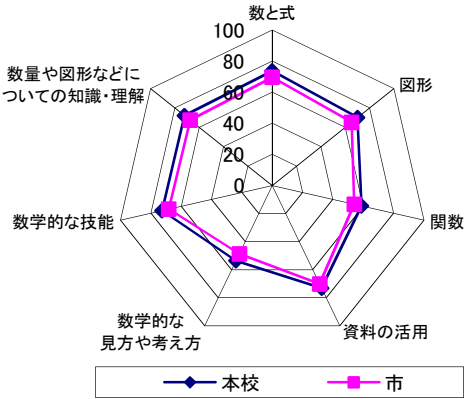
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	市平均に比較して、－1. 6％であった。地図や統計などからの読みとり・判断、及び読み取った内容の表現が苦手で、とくに女子生徒に苦手意識が強く、興味・関心の度合いも低かった。	アンケートなどをとると、とくに女子生徒に地図や統計資料への苦手意識をもつ者が多く、こういったことが判明して現在の本校3年生は、地理分野で得点があがっていない。これを改善する手段として、授業での地図帳使用の時間を意識的に多くするほか、DVD(ビデオ)や興味・関心をひく資料の提示などが考えられるので、現在不足している最新のDVD資料を早急に用意したい。また、現在の年間指導計画の地誌中心の授業形態を一部変更し、統計や地図を使用した問題解決学習の時間を小単元終了時にまとめとして行うようなカリキュラムを組むように改善したい。
	日本の諸地域	市平均に比較して、－2. 8％であった。世界の諸地域と同様、地図や統計などからの読みとり・判断、及び読み取った内容の表現が苦手で、女子生徒に苦手意識が強かったのも同様である。	
歴史	近現代の日本と世界	市平均に比較して、＋0. 7％であった。年表を使用した歴史事象の年代順の配列や用語を回答する問題の正答率は70～80％であるが、資料の読み取りや幅広い知識・理解を問うものに関しては極端に正答率が低下するという地理と同様の傾向がうかがえる。	歴史的分野は、内容が多岐・広範にも関わらず生徒の興味・関心が高く、年表学習などが通史学習に直結することによって比較的高い正解率である。これらを土台に歴史事象をよりわかりやすくまとめる「いつ・どこで・誰が・なにをして→どうなった」という一連の流れをキーワード化して、楽に楽しく学べる工夫を取り入れていきたい。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	市平均に比較して、＋2. 4％であった。学習した時期が最近であること、歴史でも取り上げた内容でもあることなどから基本的内容の定着度は良好であったが、ここでも地理・歴史と同様に、短答式の回答要求の問題はできるが、考察した内容を記述する問題などは答えようとする意欲も含め、十分でないことがうかがえる。	近現代史学習では、世界史の帝国主義→第一次世界大戦→戦間期→第二次世界大戦→戦後世界の形成・冷戦という流れの中における日本の姿を理解させる大きな目標がある。これに近づくためには、中学生といえどもかなりの事実認識の蓄積が必要である。こういった背景から、知識・理解偏重の学習に傾くのはやむおえないが、公民的分野ではその歴史的背景をもとにさらに現代的な内容が入るため、多くの生徒にとっては膨大な学習内容と格闘・・・というイメージになっている。こういった現状を打開するために、現在でもDVD(ビデオ)の視聴やまとめの時間を増やして対応しているが、これらの質の向上と、生徒の興味・関心を喚起し、それを成績向上に結び付ける資料・教材の開発を継続したい。
	民主政治と政治参加	市平均に比較して、＋1. 2％であった。民主政治は、欧米の市民革命・明治以降の日本の政治体制、現代の民主政治の現状の三本柱からなるが、内容的には歴史的分野の復習といってよく、公民として学習する生徒にとっては、新鮮味に欠ける。こういったことからどうしても内容的な興味・関心が育ちににくく、それに伴って得点が上がらない傾向が続いている。	

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	73.6	69.6
	図形	70.1	65.2
	関数	58.9	54.1
	資料の活用	73.2	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	53.7	48.7
	数学的な技能	72.6	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	72.1	67.5



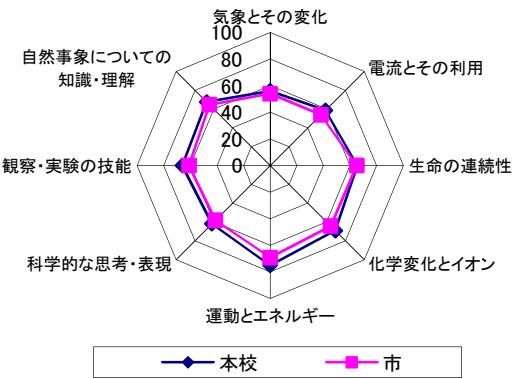
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は宇都宮市の平均より4%高い。設問ごとに見ていくと、大部分が高い正答率であり、基本に関する部分は概ね良好である。平方根の大小と解の公式の利用に対して、やや弱い傾向がある。	平方根の意味を再度復習する時間を取り、定着を図るとともに、複雑な計算や公式の反復練習に努めたい。問題を解くだけでなく、しっかりとその意味を理解させ、高校数学へとつなげたい。
図形	正答率は宇都宮市の平均より4.9%高い。設問ごとに見ていくと、大部分が高い正答率であり、基本に関する部分は概ね良好である。相似や合同の証明など、市の平均を10%ほど上回っているものの、7割には達していない。	定義、定理を内容をよく理解させながら定着させ、見通しを持たせてから、問題に取り組めるように指導していく。また、昨年に引き続き、じっくりと考えることの大切さ、楽しさを感じさせていきたい。
関数	正答率は、宇都宮市の平均より4.8%高い。基本に関する部分は概ね良好である。グラフの総合問題では、グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題が出題され、市平均では、全領域で最も正答率が低く、25%前後であった。本校も市の平均を10%ほど上回っているものの、同様の傾向があった。	数学的な見方、考え方を伸ばすために、総合問題に数多く取り組みせ、表や式、グラフを手がかりに考える習慣を身につけられるようにする。また、高校数学でさらに多様で深化する関数分野に対応できるよう、2次関数だけでなく、比例、反比例、1次関数の復習にも力を入れたい。
資料の活用	正答率は、宇都宮市の平均より2.9%高い。今回の問題は、2年次で学習する確率の問題からの出題であったが、基本的な内容は、定着していると思われる。	実社会に基づく資料の関連付けや興味、関心が持てる課題を設定し、意欲的な取り組みができるよう指導していきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	56.1	54.0
	電流とその利用	58.6	53.8
	生命の連続性	65.4	65.0
	化学変化とイオン	69.2	64.2
	運動とエネルギー	75.1	69.2
観点別	科学的な思考・表現	61.9	58.2
	観察・実験の技能	66.0	61.1
	自然事象についての知識・理解	67.5	64.6



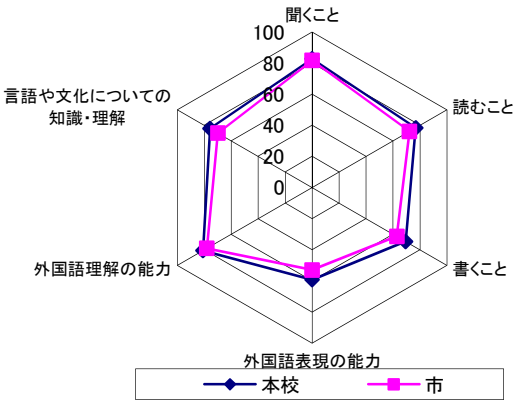
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	宇都宮市と比べると+2. 1%である。設問ごとに見ていくと、ある程度定着されていると考えられる。雲のでき方と水蒸気では、おおむね高い正答率になっていたが、前線の通過と天気の変化の問題では、市の平均より若干低くなっていた。	前線の通過と天気の変化の問題で、低気圧の大気の動きや風の向きについてを考える問題の定着度が市の正答率より低いため、同様の問題を繰り返しとくことで理解度を上げていきたい。
電流とその利用	宇都宮市と比べると+4. 8%である。設問ごとに見ていくと、ある程度定着されていると考えられる。電流の性質では、市の平均とほぼ同じであった。電流と磁界では、各設問とも7%程度上回り、十分な達成状況といえる。	電流とその利用の電力に関する問題では、市の正答率とほぼ同じであった。電力や発熱量を求める計算方法などの理解度が低かった。学習から時間がたっており、忘れてしまっている生徒も多いと考えられる。時間がとれる限り、何度も復習する機会を持ちたい。
生命の連続性	宇都宮市と比べると+0. 4%である。設問ごとに見ていくと、若干低い正答率もある。染色体で染まる部分についての設問では、3%程度下回っている。逆に、遺伝の規則性と遺伝子では、市の平均を上回っているものと下回っているものがあり、定着度の差が大きいといえる。	生物の成長と生殖に関する問題では、染色液に染まる部分の問題や細胞分裂の順序などの基本的な問題が定着していなかった。同様の問題を繰り返しとくことで理解度を上げていきたい。
化学変化とイオン	宇都宮市と比べると+5. 0%である。設問ごとに見ていくと、電流が流れる水溶液についての設問では、市の平均を下回ったが、それ以外の設問では市の平均を上回っていた。特に、塩化ナトリウムの電離をイオン式で表す設問では、15%以上上回っているなど十分な定着がはかれていた。	水溶液とイオンの問題では、電流が流れる水溶液についての理解度が市の正答率より低かった。電解質と非電解質のについての復習を行い、理解度を高めていきたい。
運動とエネルギー	宇都宮市と比べると+5. 8%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率であり、ある程度定着されていると考えられる。特に、力の規則性の問題では、すべての問題で約8%ほど上回っていた。十分な達成状況といえる。	学習して時間がたっていないため、おおむねできていたが、発展的な内容にも取り組み、科学的思考力を高めていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	82.7	81.7
	読むこと	76.8	72.2
	書くこと	69.3	62.8
観点別	外国語表現の能力	59.2	53.0
	外国語理解の能力	81.0	78.1
	言語や文化についての知識・理解	75.9	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	宇都宮市の正答率をわずかに上回っている。 授業ではClassroom Englishの使用で英語を聞く機会を増やしたり、また単元終了ごとにListening Testを行っている。	正答率は上回ったものの、わずか1%なので、日常的に英語を耳にできるようにClassroom Englishの使用をさらに増やしていきたい。 またコミュニケーション能力向上の活動として行っている、さまざまな場面での会話活動を継続していく。
読むこと	宇都宮市の正答率を4.6%上回っている。 授業では、単元ごとに長文の読解を行っている。読むことに関しての苦手意識は少ないが、わからない単語が出てくると止まってしまうこともあるので周りのわかる単語から推測する力をつけるよう努力した。	この状態を維持できるように、読解練習を続けていきたい。語彙を推測して読む力はまだまだなのでともに続けていきたい。 また語彙力を増やすため、また新出語句を定着させるために読み・書きの練習を積極的に行い、テストなどをし力をつけさせていきたい。
書くこと	宇都宮市の正答率を6.5%上回っている。 文法の定着のため、ワークシートを用い繰り返し反復練習に取り組んだ。また1、2年生の文法の復習も兼ねた。 自己表現をできる生徒がたくさんいることも、正答率の上昇につながっている。	反復練習の結果、文法が定着しているので引き続き現在の活動を行っていききたい。苦手意識をもたぬよう1・2年の内容も反復的に行う。 また「聞くこと」の活動として行っている会話活動を文章化する英作文活動を行っていく。